



前田 秀人 (まえだ ひでと)

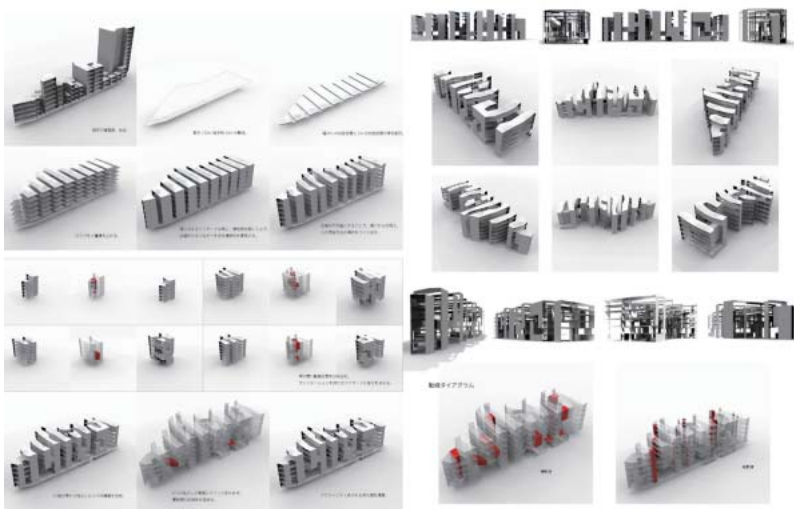
東京理科大学 理工学部 建築学科



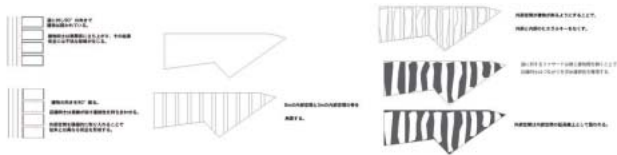
従来建築は道に対して直角の向きにファサードが与えられる。それは建物が広告となり着飾ったものとなっている。それゆえに建築同士のつながりは希薄なものとなり、人のアクティビティを感じることなく建ち並んでいる。建物間には排他的な存在としての外部空間が単なる建築の隙間として取り残されている。

建築の向きを90°振ることの提案。道に面した建築のファサードを閉じる。道と平行の向きの壁を取り払う。店舗同士は視線が抜け、気配を感じ取ることができる。人の行動は人の行動を誘発し店舗同士のつながりを強調する。豊かな外部空間には人があふれかえり、多孔質な建築は人の動きを生み出し、吸い込んで吐き出していく。

設計プロセス



設計ダイアグラム



ELEVATION



北側立面

東側立面



西側立面



南側立面

5=1:300

講評 無計画な開発、協調性の無いデザインが並び、閉ざされた感のある通りに息吹を吹き込もうと考えた本計画は、ひとつの方向性を示している。単に全体を共同ビルとして開発することをせず、通りに直角に建てられた建物によって多数の横丁を作り広場を提供することで、隣同士で競争し、協調して発展させる。さらに作者は上部階にもこの空間を広げるべくブリッジを渡し、ガラス張りの壁を設けることで個々の建築が一体となることを期待している。しかし通り側から見ると、近づくまでその存在が見えず表面の壁が無表情に見える。もう一工夫欲しい作品である。図面・模型は大変よく出来ており、今後の活躍を期待したいと思います。

(審査員：竹下 章治)